

ゆら早生(ゆらわせ)

登録番号：第4723号

登録年月日：平成7年9月14日

登録者：由良町農業協同組合（和歌山県日高郡由良町466番地）

育成者：山口寛二

来歴：「宮川早生」の枝変わり

育成地：和歌山県日高郡由良町

特性

■栽培特性

樹姿は開張性、樹の大きさ、樹勢、枝梢の太さおよび粗密は中、枝梢節間長は短、とげはない。葉形指数は中、葉身の面積は小、長さおよび幅は短、葉柄の長さは中、葉柄比率は大である。

和歌山県吉備町での発芽期は4月2半旬、展葉期は4月6半旬、開花時期は5月1半旬、開花盛期は5月3半旬である。新梢の発生は中、長さは中からやや短、太さは中、結実性、生理落果および隔年結果性は中である。苗木定植後の生育は土づくりや灌水、適正な防除等が伴えば良好である。

■果実特性

果実の外観は円、果形指数は～135、果実の大きさは中、果皮の色は黄橙、油胞の大きさは中、密度は密、果面の平滑度は中、果皮の厚さはやや厚から中、剥皮の難易は易である。じょうのう膜の硬さは軟、果汁の多少は多、甘味は多(糖度12度程度)、酸味および香氣は少である。

和歌山県吉備町での着色始期は9月6半旬、成熟期は10月4半旬、果実肥大は良好であるが後半の横径肥大は鈍く、果形指数は下がり、果実は球形に近くなる。夏期の高湿乾燥と秋期の少雨により、果汁中の糖度は比較的上昇するので、着色および減産の早い極早生の特徴とともに着色が良く、高糖度となる特徴も併せて持っている。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

かいよう病、そうか病には抵抗性で、その他の病虫害防除は極早生種の一般的な防除体系に準じて問題はない。

苗木定植に際しては植え穴の土づくり、初期の生育を促進するためには植え付け後の十分な施肥と灌水、適正な病虫害防除が重要である。

結実樹で果実の肥大と減酸を促し早期出荷を行うには、春期の施肥量をやや減少し、夏期の灌水を多くする。一方、完熟として高糖度果実生産を行う場合は夏期の灌水を少なくし、着果程度をやや多めにして、M球果実が揃うように群状結実とする。さらに、着色促進、糖度上昇を図る場合は夏秋期に部分マルチを行う。

■地域適応性

温暖多湿な西南暖地における一般的な栽培には特に問題はない。しかし、本品種は極早生としては比較的精度が高く、着色は良く、減酸はやや遅い特性を有しており、10月中旬以降にはほぼ完熟状態にしての収穫・出荷が可能で、その特性を発揮するには、開花時期は早く、夏期(7、8月)が高湿乾燥で推移し、9月以降も少雨な地域で、かつ日照や排水の良い圃地条件が好ましく、この面から栽培の適正域は限定されると考えられる。

成熟期の早い極早生では、早生や普通温州に比べ、生育期特に夏期の気象条件が果実品質により大きく影響するので、高品質果実生産のためにはより厳しい適地判定が必要と考えられる。

(小沢良和)